

連作として考える「きらめく星座」と「花よりタンゴ」

—音楽劇の視点から—

坂本 麻実子

Linkage between *Kiramekuseiza* and *Hanayoritango*

—from a Viewpoint of Music Drama—

SAKAMOTO Mamiko

E-mail: msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：井上ひさし、きらめく星座、花よりタンゴ、昭和庶民伝三部作、音楽劇

keywords: Inoue Hisashi, *Kiramekuseiza*, *Hanayoritango*, Showashominden-sanbusaku, music drama

はじめに.

本稿は、井上ひさし(1934-2010)の「きらめく星座—昭和オデオン堂物語」(以下「きらめく星座」と略記)と「花よりタンゴ—銀座ラッキードンズホール物語」(以下「花よりタンゴ」と略記)の2作品を音楽劇の視点から関連づけ、連作としてとらえ直す試みである。

井上の音楽劇の中でも人気のある「きらめく星座」(1985年9月こまつ座初演)は、井上が愛した昭和10年代の流行歌を劇中にふんだんに使用している。「きらめく星座」は時代設定を昭和15年(1940)11月3日(明治節)、翌16年(1941)2月11日(紀元節)、4月29日(天長節)、8月15日、11月23日(新嘗祭)、12月7日の太平洋戦争開戦前夜の全6日とし、浅草のオデオン堂というレコード店が舞台である。オデオン堂一家にはタイトルに通じる昭和15年のヒット曲「きらめく星座」をはじめ数々の流行歌を歌わせる。オデオン堂一家のせりふの中にも流行歌のタイトルや歌詞の一部が織り込まれている。流行歌はピアノでも演奏される(後出の表1と2参照)。オデオン堂の女主人小笠原ふじは「きらめく星座」のプリマであり、井上はふじを松竹少女歌劇団(SSK)出身の元流行歌手「ミスクリスタル」(戦前の人気歌手ミス・コロムビアのもじり)と設定し、初演では流行歌手の夏木マリが演じた。井上は昭和10年代の流行歌を活用することで、オデオン堂一家が戦時体制が強まる中で非国民扱いにされ、ついには廃業に追い込まれて離散するという物語に

説得力をもたせた。

「きらめく星座」の初演時、井上は「今回は戦前ですから、東京裁判(筆者注. 1946~48年の極東国際軍事裁判)で敗戦をやって戦後を浅間山荘(筆者注. 1972年2月の浅間山荘事件)でやって、この三本をまず芝居でと考えているところです」と語っていた(井上1985:62)。この「戦前・敗戦・戦後三部作」構想がのちの「昭和庶民伝三部作」の基になったとみてよい。井上は「きらめく星座」の翌年に「昭和庶民伝三部作第二弾」(井上, こまつ座1986:229)として「花よりタンゴ」(1986年9月こまつ座初演)を発表した。「花よりタンゴ」は東京裁判そのものを扱うわけではないが、時代設定を昭和22年(1947)9月25日から10月1日までの1週間とし、元男爵の月岡家四姉妹(蘭子、藤子、桃子、梅子)が営むダンスホールが進駐軍の高級慰安施設として接收されるまでの物語である。四姉妹は戦前、戦後の流行歌を歌い、タイトルにもあるようにタンゴも踊る。特にタンゴの名曲「ジェラシー」には井上が歌詞をつけて「あなたとわたしそしてタンゴ」というタンゴ歌謡に作り替え、歌と躍りで見せ場を作った(後出の表3と4参照)。四姉妹のうち歌のプリマは三女桃子で、流行歌手志望である。初演ではミュージカル女優の島田歌穂が演じた。踊りのトップは長女蘭子で、社交ダンスの名手である。初演では松竹歌劇団(SKD. 松竹少女歌劇団から改称)出身の春日宏美が演じた。

井上は「花よりタンゴ」には次のような意気込みを示していた。

今回の「花よりタンゴ」は、これまでに、ささやかながらも開発した「音楽を伴った演劇」の型式に踊りを加えてみようと思います。そこで舞台を銀座の裏通りの小さなダンスホールに設定しました（井上、こまつ座1986：233）。

しかし井上は「花よりタンゴ」の初演に不満が残り、「幕が本当に上がるのは来秋の再演時になりそうである」（井上1986：226）と再起を期した。そして翌1987年の秋になると井上は「花よりタンゴ」を再演せず、それどころか「みごとに失敗しました」、「テーマに押し潰されて手も足も出ませんでした」（井上2005：202）と表明して昭和庶民伝三部作からはずしてしまった。1987年の秋に井上がこまつ座で行ったのは、9月に「きらめく星座」の再演、10月に「闇に咲く花—愛敬稲荷神社物語」（以下「闇に咲く花」と略記）の初演、11月に「雪やこんこん—湯の花劇場物語」（以下「雪やこんこん」と略記）の初演であり、井上はこの3本をセットにして昭和庶民伝三部作とした。「闇に咲く花」は時代設定を「花よりタンゴ」と同じく昭和22年（1947）の夏とし、東京大空襲で焼けた神社の境内を舞台として国家神道の戦争責任を問う。劇中では流行歌は歌われず、音楽はギターのみ独奏だけである。「雪やこんこん」は時代設定を昭和20年代の終わりの12月中旬とし、田舎の温泉町の芝居小屋を舞台に旅回り一座の奮闘を描く。劇中では流行歌のレコードをかけて旅回り一座が股旅おどりと呼ぶ歌謡ショーを演じる。なお、井上が浅間山荘事件を題材にした音楽劇を書くことはついになかった。

したがって「昭和庶民伝三部作」には2通りのセットがある。一つは1987年秋に完成されたセット—第1作「きらめく星座」（戦前編）、第2作「闇に咲く花」（敗戦編）、第3作「雪やこんこん」（戦後編）—である。このセットの完成により井上は第15回テアトロ演劇賞を受けた。もう一つは1986年の第2作までで断念された未完のセット—第1作「きらめく星座」（戦前編）、第2作「花よりタンゴ」（敗戦編）、第3作の浅間山荘事件を題材にした幻の戦後編—である。「きらめく星座」は井上が昭和庶民伝三部作の中でも「百点」（井上2005：203）と言う出来で、こまつ座公演は現在まで6演を数える。それに比べて「花よりタンゴ」は井上が失敗作と言ったためか、こまつ座公演は3演にとどま

る。しかし、井上が言う「花よりタンゴ」の失敗とは日本人の戦争責任というテーマに関してである。「音楽を伴った演劇」の型式に踊りを加えるという試みまで失敗したとは言っていないので、その点は検証する余地があるだろう。

音楽劇の視点からは未完の昭和庶民伝のセット第1作「きらめく星座」と第2作「花よりタンゴ」には関連性を強く感じる。まず、2作とも登場人物が流行歌を歌う。人物造形の点でも、「きらめく星座」のふじのSSK出身という面は「花よりタンゴ」では社交ダンスの名手の蘭子に受け継がれている。「きらめく星座」は時代設定が開戦直前なので、ふじのダンスは防火訓練用のバケツ体操であるが、「花よりタンゴ」では蘭子たちの本格的なダンスシーンがある⁽¹⁾。また、ふじの流行歌手という面は「花よりタンゴ」の流行歌手を目指す桃子に受け継がれている。一方、完成された昭和庶民伝三部作では第1作「きらめく星座」では流行歌を歌い、第2作「闇に咲く花」では歌わずにギター独奏、第3作「雪やこんこん」ではレコードで股旅おどりと三者三様であり、それだけに「きらめく星座」と「花よりタンゴ」の歌や踊りの関連づけは井上が強く意図したものと思われる。そこで、「きらめく星座」と「花よりタンゴ」を連作として考えるために、2作で使用される歌曲を調査した上で、ふじの音楽人生と蘭子・桃子姉妹の音楽人生をたどってみたい。

1. 「きらめく星座」小笠原ふじの音楽人生

「きらめく星座」では劇中歌として歌われる10曲に加え、タイトルや歌詞の一部をせりふの中に取り入れた歌曲、ピアノで演奏される歌曲が16曲もある（表1と2参照）。

小笠原ふじは昭和10年（1935）にニッソーレコード系列のクリスタルレコードに入社した。業界ではマイナーレーベルである。翌11年、ミスクリスタルの名でデビュー盤を発売した。表2に示すようにA面は「突っ張らかっちゃ駄目よ」、B面は「うちの女房にゃ角がある」である。会社は「とんがらかっちゃ駄目よ」（渡辺はま子、ビクター。「ネエ小唄」と呼ばれ評判になる）、「うちの女房にゃ髭がある」（杉狂児と美ち奴のデュエットソング、テイチク）がヒットしたのに便乗したのだろうが、ミスクリスタルの歌は売れなかった。一方、ふじと同期入

表1. 「きらめく星座」使用歌曲一覧

場面	タイトル, 作詞者, 作曲者, 歌手
I-(1)	1 「花咲き花散る宵も」→東京ラブソディ W 門田ゆたか, M 古賀政男, S 藤山一郎 2 「ああそれなのにそれなのに」→ああそれなのに W 星野貞志, M 古賀政男, S 美ち奴 3 月光値千金 原曲 Get and Out under the Moon W 榎本健一(訳詞), M シェイ Shay, Larry, S 榎本健一
I-(2)	4 「雲にそびゆる高千穂の」→紀元節 W 高橋正風, M 井沢修二 5 「幼馴染みのあの友この友」→誰か故郷を想はざる W 星野貞志, M 古賀政男, S 霧島昇 6 燦めく星座 W 佐伯孝夫, M 佐々木俊一, S 灰田勝彦 7 「とんとんとんからりと隣組」→隣組 W 岡本一平, M 飯田信男, S 徳山漣 8 「日本男児と生れ来て」→戦陣訓の歌 W 梅木三郎, M 須磨洋朔, S 徳山漣 9 愛国の花 W 福田正夫, M 古関裕而, S 渡辺はま子 10 「恩賜の煙草をいただいて」→空の勇士 W 大槻一郎, M 古関裕而, S 藤山一郎ほか
I-(3)	11 雨のブルース (ピアノ独奏) W 野川香文, M 服部良一, S 淡谷のり子 12 一杯のコーヒーから W 藤浦洸, M 服部良一, S 霧島昇, ミス・コロムビア 13 「海行かば水漬く屍」→海行かば W 大伴家持, M 信時潔 14 「手柄立てずに死なれよか」→露営の歌 W 藪内喜一郎, M 古関裕而, S 中野忠晴ほか 15 愛馬進軍歌 W 久保井伸夫, M 新城正一, S 徳山漣, 四谷文子 16 「吾は官軍我が敵は」→抜刀隊 W 外山正一, M ルルー Leroux, Charles 17 小さい喫茶店 In Einen Konditorei W 沼津太郎(訳詞), M レイモンド Raymond, Fred, S 田中福夫, 唄川幸子
II-(4)	18 「なぜか忘れぬ人ゆゑに」→緑の地平線 W 佐藤惣之助, M 古賀政男, S 練木敏夫 19 「突っ張らかっちゃ駄目よ」(ミスクリスタルのデビュー盤 A 面) →とんがらかっちゃ駄目よ W 佐伯孝夫, M 三宅幹夫, S 渡辺はま子 20 「うちの女房にゃ角がある」(ミスクリスタルのデビュー盤 B 面) →うちの女房にゃ髭がある W 星野貞志, M 古賀政男, S 杉狂児, 美ち奴 21 チャイナ・タンゴ W 藤浦洸, M 服部良一, S 中野忠晴

II-(5)	22 桃太郎 (ピアノ独奏) W 田辺友三郎, M 納所弁次郎 23 花嫁人形 (ピアノ独奏) ㊟ W 蔭谷虹児, M 杉山はせを 24 星めぐりの歌 W 宮沢賢治, M 宮沢賢治
II-(6)	25 煙草屋の娘 W 清水みのる, M 米山正夫, S 高峰秀子 26 青空 原曲 My Blue Heaven W 藤原山彦(訳詞), M ドナルドソン Donaldson, Walter, S 市川春代

備考：井上(1988)より作成。Wは作詞者，Mは作曲者，Sは歌手。「」内はせりふの中に織り込まれた歌詞やタイトルで→印に続けて出典を示す。

㊟井上(1986)では「雨降りお月さん」(W野口雨情，M中山晋平)である。

表2. 「きらめく星座」の使用歌曲とその時代、「きらめく星座」での演唱者一覧

発表年	タイトル	曲数	「きらめく星座」での演唱者 (該当する場合のみ記載)
昭和10年 (1935) まで	抜刀隊 (明治18年) 紀元節 (明治21年) 桃太郎 (明治33年) 星めぐりの歌 (大正11年) 花嫁人形 (大正13年)	5	源次郎 信吉 森本 P ふじ+森本 P 森本 P
昭和10年 (1935)	青空 小さい喫茶店 緑の地平線	3	ふじ 正一+森本 P 信吉
昭和11年 (1936)	月光値千金 東京ラブソディー ああそれなのに とんがらかっちゃ駄目よ うちの女房にゃ髭がある	5	ふじ, みさを, 信吉, 竹田+森本 P 信吉 信吉 歌わない 歌わない
昭和12年 (1937)	海行かば	1	源次郎
昭和13年 (1938)	愛国の花 雨のブルース 露営の歌	3	ふじ, みさを+森本 P 森本 P 源次郎
昭和14年 (1939)	一杯のコーヒーから 愛馬進軍歌 チャイナ・タンゴ 空の勇士	4	ふじ, 信吉, 竹田, みさを, 正一+森本 P 源次郎 ふじ, 信吉, 竹田, 正一, 源次郎, 権藤+森本 P 源次郎
昭和15年 (1940)	燦めく星座 誰か故郷を想はざる 隣組	3	信吉, 正一, 竹田+森本 P 正一 正一
昭和16年 (1941)	戦陣訓の歌 煙草屋の娘	2	源次郎 源次郎+森本 P

備考：井上(1988)より作成。Pは森本のピアノ，+森本Pは森本のピアノ伴奏を示す。

社の市川春代のデビュー盤「青空」⁽²⁾はヒットし、ふじは自信を失った。(実際には「青空」は昭和10年に発売され、B面は「ベティ・ブープ」である。)会社はミスクリスタルを裏通りの小店であるオデオン堂にも新曲宣伝に行かせるが、主人の小笠原信吉は客寄せのために榎本健一の「月光値千金」をリクエストする有様であった。これが縁でふじは信吉の後妻になり、信吉の子供である正一、みさを兄妹、下宿人の竹田や森本からも慕われた。

ミスクリスタルは1年あまりで引退したが、昭和10年から15年にかけては戦前の流行歌の黄金時代で、レコード各社がヒット曲を出した。当時、テイクではコロムビアから引き抜いた作曲家古賀政男(1904-1978)の全盛期であり、表2を見るとオデオン堂一家は古賀作品を「緑の地平線」、「東京ラプソディー」、「ああそれなのに」、「うちの女房にゃ髭がある」、「誰か故郷を想はざる」の5曲も歌っている。ビクターではハワイ生まれの灰田勝彦(1911-1982)が「クルーナー crooner」(低音の甘い声で歌う)歌手として人気を誇り、表2を見るとオデオン堂一家も灰田の「燦めく星座」を歌っている。コロムビアでは古賀が去って痛手であったが、ニッポンから作曲家服部良一(1907-1993)を迎えた。表2を見るとオデオン堂一家は服部作品では「雨のブルース」をピアノで弾き、「チャイナ・タンゴ」を歌っている。オデオン堂一家は当時は「ジャズソング」と呼ばれたモダンな歌を好み、同じ流行歌でもポリドールが得意とした時代ものや股旅もの(後出の表5で言えば「むらさき小唄」、「流転」、「お島千太郎旅唄」、「名月赤城山」)を歌っていない。一方、昭和10年には二二六事件が起こり、12年には日中戦争が始まり、13年には国家総動員法が発令されると、レコード各社は国策に沿った軍歌や軍国歌謡も発売した。オデオン堂一家では、唯一、みさをの夫で傷痍軍人である源次郎が軍歌や軍国歌謡を好み、表2を見ると「抜刀隊」、「海行かば」、「露営の歌」、「愛馬進軍歌」、「空の勇士」、「戦陣訓の歌」を歌っている。源次郎がふじたちと「チャイナ・タンゴ」を歌うのは、タンゴが日本の軍事同盟国であるドイツで盛んな音楽だからであろう。オデオン堂も当時のレコード業界の縮図になっていた。「きらめく星座」が始まる昭和15年は、「燦めく星座」がヒットしても当局から発禁処分を受け、隣組制度のキャンペーンソング「隣組」は売

れ、前線の兵士たちは密かに「誰か故郷を想はざる」を歌うという状況であった。

ふじは懸命にオデオン堂と家族を守ろうとした。ふじは町内の忘年会で歌を頼まれても断るが、国防婦人会からバケツ体操の普及を頼まれれば引き受けた。軍国路線の源次郎に店の経営を任せてジャズソングの類いは処分した。それでもふじは昔は「アメリカ人みたいな名前」で色気をふりまく流行歌手、今はジャズソングの好きなレコード店の後妻であり、義理の息子の正一は軍隊を脱走して逃亡中とあれば世間の口はうるさかった。ふじの奮闘の甲斐もなくオデオン堂は強制収用の対象にされてしまう。しかし、下宿人の竹田が持っていた楽譜で宮沢賢治作詞、作曲の「星めぐりの歌」を歌うと、心に響くものがあった⁽³⁾。オデオン堂廃業の前日、入営を控えた若者が来店し、市川春代の「青空」を聞きたいと言う。ふじを気遣った源次郎は当時のアイドル高峰秀子が歌う「煙草屋の娘」をすすめるが、ふじは「青空」を歌った。ふじは歌手生命を絶たれた「青空」を歌うことで過去と和解し、長崎での新しい生活への一歩を踏み出す。もちろん、ふじは昭和20年8月9日の原爆投下にあうだろうと暗示してのラストである。

2. 「花よりタンゴ」の蘭子・桃子姉妹の音楽人生

「花よりタンゴ」の劇中歌は全部で13曲である。時代設定されている昭和22年以後に発売される流行歌も2曲含まれており(表3と4参照)、続編が書かれるのを予告するかのようである。

月岡蘭子は戦争未亡人であり、戦後、外交官だった夫の赴任地である上海から引き上げてきた。上海で身につけたダンスを生かし、銀座の裏通りで両親を亡くした妹たちと小さなダンスホールを経営している。蘭子はブルースを「だれにでもできるやさしいダンス」と低く見ており、妹たちにはタンゴやワルツを稽古させる。稽古では歌いながらステップを踏ませるので、タンゴでは「ジェラシー」に歌詞をつけたタンゴ歌謡「あなたとわたしそしてタンゴ」、ワルツではイタリアのポピュラーソング「やさしき花」を使った。フォックストロットやクイックステップは妹たちには難しいので蘭子は一人で稽古し、このときは歌わずにステップを踏む。蘭子たちのダン

表3. 「花よりタンゴ」使用歌曲一覧

場面	タイトル, 作詞者, 作曲者, 歌手
I-(1)	1 愛のスイング W 藤浦洸, M 平川英夫, S 池真理子 2 あなたとわたしそしてタンゴ① 原曲 Jealousy W 井上ひさし, M ガーデ Gade, Jacob
I-(2)	3 おひさしぶりね 原曲 It's Been A Long Long Time W 井上ひさし(訳詞), M スタイン Styne, Jule 4 「カムカムエブルGI」→NHK ラジオの英語会話(講師平川唯一)の主題歌(証々寺の狸ばやしの替え歌)のもじり
I-(3)	5 星影の小径 W 矢野亮, M 利根一郎, S 小畑実 6 警防団歌 W 大日本警防協会制定, M 東京音楽学校, S 伊藤武雄 7 上海リル 原曲 Shanghai Lil W 名古屋宏(訳詞), M ウォレン Warren, Harry, S 唄川幸子
II-(4)	8 東京の花売娘 W 佐々木詩生, M 上原げんと, S 岡晴夫 9 やさしき花 原曲 Non Ti Scordar Di Me W 大橋幸司(訳詞), M カーティス Curtis, Ernesto de, S 野上艶子
II-(5)	10 港が見える丘(レコード使用) W 東辰三, M 東辰三, S 平野愛子 11 銀座音頭→秋田音頭(日本民謡)の替え歌 12 ブルームーン 原曲 Bluemoon W 塚本俊夫(訳詞), M ロジャース Rogers, Richard, S 江戸川蘭子
II-(6)	13 東京ブギウギ W 鈴木勝, M 服部良一, S 笠置シヅ子 -あなたとわたしそしてタンゴ②

備考: 井上(1988)より作成。Wは作詞者, Mは作曲者, Sは歌手。

表4. 「花よりタンゴ」の使用曲とその時代, 「花よりタンゴ」での歌唱者一覧

発表年	タイトル	曲数	「花よりタンゴ」での演唱者 (該当する場合のみ記載)
昭和22年 (1947) まで	秋田音頭 Jealousy (1925, →あなたとわたしそしてタンゴ) 上海リル(昭和9年) やさしき花(昭和12年) ブルームーン(昭和14年) 警防団歌(昭和15年) It's Been A Long Long Time (1945, →おひさしぶりね) 愛のスイング(昭和21年) 英語会話主題歌(昭和21年) 東京の花売娘(昭和21年)	10	近藤, 佐々木 蘭子, 藤子, 桃子, 梅子, 花売娘, 金太郎+森川P 蘭子+森川P 桃子+森川P 蘭子, 桃子, 梅子+森川P 金太郎 桃子+森川P 桃子+森川P 金太郎 蘭子+森川P
昭和22年 (1947)	港が見える丘	1	森川P
昭和22年 (1947) 以後	東京ブギウギ(昭和23年) 星影の小径(昭和26年)	2	桃子+森川P 桃子, 梅子+森川P

備考: 井上(1988)より作成。Pは森川のピアノ, +森川Pは森川のピアノ伴奏を示す。

スホールへ月岡家の元運転手で現在は闇屋の金太郎が現れ、乗っ取ろうとする。戦前・戦後を変わり身の早さで生きてきた金太郎は「警防団歌」と英語会話の主題歌を歌う。蘭子は細腕ながら粘り強く金太郎に抵抗し、中国式スリットドレスで歌う「上海リル」には蘭子の矜持がこめられている。それでも、蘭子たちのダンスホールは進駐軍によって接収され、進駐軍には金太郎も逆らえない。ラストでは四姉妹が金太郎を相手に再び「あなたのわたしそしてタンゴ」を踊る。2度目のタンゴは稽古ではなく、四姉妹の新たな人生への旅立ちのステップである。

蘭子の異母妹の桃子は家計を助けようと流行歌手を目指し、レコード会社のオーディションをねらっている。ビクターには不合格だったので、次のコロムビアのために3曲用意しなければならない。1曲目は練習中の「愛のスイング」である。あと2曲必要だが、桃子は運を開くために「キング専属作曲家」で「コロムビアにもこねがある」という触れ込みの先生のレッスンを受け、そこで教わった曲に決めた。一つは「おひさしぶりね」⁽⁴⁾であり、コロムビアの文芸部長が好きな曲だという。もう一つは桃子がレッスンを受けた作曲家の未発表曲「星影の小径」(実際の発売は昭和26年)だという。昭和22年9月30日のオーディション当日、桃子は受験者の中で強敵は「美空ひばり」という名の「憎らしいほど巧い女の子」一人だけと見た。しかし、レッスン代をかせぐためにヌードモデルのアルバイトをしていたところをコロムビア文芸部長に見られていた。動転した桃子は本番で失敗し、またもや不合格となった。桃子は日劇のバンドマンから発売前の「東京ブギウギ」という曲を教わって元気を取り戻す。

桃子のオーディションについて、井上は当時のレコード界の状況をフィクション交じりに書いている。それでも、桃子が「第二の渡辺はま子」や「並木路子の二代目」を目指したとする設定は興味深い。並木路子の「りんごの唄」(昭和21年)や渡辺はま子の「雨のオランダ坂」(昭和22年)は確かにヒットしたが、2番目をねらう点では桃子は後追い企画で売り出したミスクリスタル(ふじ)と同じである。現実のレコード界は「東京ブギウギ」を歌う笠置シズ子(1914-1985)の時代になる。「東京ブギウギ」は、皮肉にも桃子が落ちたコロムビアから昭和23年1月に発売される。さらに笠置シズ子の持ち歌である「セコハン娘」(昭和22年)を歌って昭和23

年5月に舞台デビューし、翌24年9月に「悲しき口笛」をヒットさせる美空ひばり(1937-1989)の時代も近づいている。桃子の直感どおり、天才少女歌手の美空ひばりは昭和24年10月に桃子が落ちたコロムビアで専属契約を結ぶのである⁽⁵⁾。流行歌手を目指す桃子の前途は決して楽ではないと暗示されるだけに、ラストでタンゴを踊る桃子は何とも健気に映る。

3. 接点となる「チャイナ・タンゴ」

「花よりタンゴ」はもともと「きらめく星座」の後続であったが、「音楽を伴った演劇」という型式に踊りを加えるという構想も「きらめく星座」の延長上に生まれたのではないか。社交ダンスにはさまざまな踊り方があるが、井上はワルツでもブルースでもフォックストロットでもクイックステップでもなくタンゴを選んでタイトルにしたのはなぜか。それを考えるヒントが「きらめく星座」の中にある。

実は「きらめく星座」にはタンゴ歌謡が2曲ある。一つ目のタンゴは「小さい喫茶店」であり、オデオン堂一家がコーヒーを飲む場面で歌われる。原曲「In Einen Kleinen Konditorei」はドイツの作曲家レイモンド Raymond, Fred が書いたコンチネンタルタンゴで、日本でも好まれた。沼津太郎訳詞「小さい喫茶店」(美味しいコーヒーを飲ませたほんとうに素敵なお茶店)は昭和10年に発売され、田中福夫と唄川幸子が歌った。今日では昭和10年に中野忠晴が歌ってヒットした青木爽訳詞「小さな喫茶店」(それは去年のことだった星のきれいな宵だった)の方が定着している。井上が沼津訳を用いた決め手は冒頭にある「コーヒー」という言葉であろう。青木訳では「お茶」はあるが「コーヒー」は出てこない。二つ目のタンゴは昭和14年に中野忠晴が歌ってヒットした「チャイナ・タンゴ」である。「きらめく星座」では脱走兵となり上海に潜伏していた正一が一時オデオン堂に戻ったときに家族と歌う。タンゴならば流行歌嫌いの源次郎も歌い、正一を追う憲兵の権藤も嫌いではないと言って歌に加わってしまう。実際、作曲家の服部良一は昭和13年に慰問団の一員として上海を訪れていた(服部1993:169)。「チャイナタンゴ 夢の唄 紅の提灯ゆらゆら」と歌われた上海は、正一が逃走した町であると同時に蘭子がタンゴを覚えた国際都

市であった。「きらめく星座」と「花よりタンゴ」をつなぐ音楽的な接点は「チャイナ・タンゴ」という歌である。そしてタンゴは「花より団子」のだんご→たんごという井上が得意とする語呂合わせを介して「花よりタンゴ」というタイトルになった。花の方は月岡家四姉妹の花の名尽くし（蘭子、藤子、桃子、梅子）にかけている⁽⁶⁾。

4. 連作としての「きらめく星座」と「花よりタンゴ」のゆくえ

井上は失敗宣言をした「花よりタンゴ」を含む昭和庶民伝シリーズ4作をすべてこまつ座のために書いた。こまつ座書き下ろし作品を順番にあげると、第1作「頭痛肩こり樋口一葉」（1984年4月初演）、第2作「きらめく星座」（1985年9月初演）、第3作「國語元年」（1986年1月初演）、第4作「泣き虫なまいき石川啄木」（1986年6月初演）、第5作「花よりタンゴ」（1986年9月初演）、第6作「闇に咲く花」（1987年10月初演）、第7作「雪やこんこん」（1987年11月初演）となり⁽⁷⁾、昭和庶民伝シリーズは2番目、5番目、6番目、7番目の作品である。主人公は第1作が女流作家、第2作がSSK出身の元流行歌手、第3作が文部省唱歌取調掛の小役人、第4作が歌人・詩人、第5作がダンサーの姉と流行歌手志望の妹、第6作が神主、第7作が旅芝居一座の女座長である。第4作と第6作は歌が入ら

ない。こまつ座書き下ろし作品から見ると、過去形とはいえプロの歌手をヒロインにして26曲の歌を盛り込んだ「きらめく星座」は井上の「音楽を伴った演劇」の中でも際立って音楽の比重が高い作品と言える。だからこそ音楽劇のさらなる進化を目指した井上は「きらめく星座」に続く作品として「花よりタンゴ」を書いたのだろう。

「きらめく星座」と「花よりタンゴ」は昭和庶民伝という庶民の側から昭和史を検証するシリーズにふさわしく、2作とも庶民に愛された流行歌を取り入れている。小笠原ふじと月岡蘭子・桃子姉妹の音楽人生は昭和戦前から敗戦直後にかけての大衆音楽史を基に作り上げたものである。井上は「チャイナ・タンゴ」というタンゴ調の流行歌を用いて戦前のレコード店の物語と敗戦直後のダンスホールの物語を連続させた。音楽劇の視点からは「きらめく星座」に続く作品は「闇に咲く花」よりも「花よりタンゴ」の方がふさわしいと考える。

もしも井上が浅間山荘事件を題材にした戦後編を書いていたらどのような作品であったか。それを考えることは連作としての「きらめく星座」と「花よりタンゴ」を再確認する作業でもある。幻の戦後編では、やはり「きらめく星座」や「花よりタンゴ」と同じく登場人物たちに流行歌を歌わせるだろう。また「花よりタンゴ」と同じくダンスシーンが入るのではないか。さらに「花よりタンゴ」と浅間山荘事件の物語の接点として引き出す素材を想像するな

表5. 「雪やこんこん」使用歌曲一覧

場面	タイトル, 作詞者, 作曲者, 歌手
I-(1)	1 むらさき小唄 (昭和10年) W 佐藤惣之助, M 阿部武雄, S 東海林太郎
	2 ひばりの花売娘 (昭和26年) W 藤浦洸, M 上原げんと, S 美空ひばり
	3 流転 (昭和12年) W 藤田まさと, M 阿部武雄, S 上原敏
I-(2)	4 お島千太郎旅唄 (昭和15年) W 西條八十, M 奥山貞吉, S 伊藤久男, 二葉あき子
II-(3)	5 ひばりのマドロスさん (昭和29年) W 石本美由起, M 上原げんと, S 美空ひばり
	6 越後獅子の唄 (昭和26年) W 西條八十, M 万城目正, S 美空ひばり
	7 名月赤城山 (昭和14年) W 矢島龍児, M 菊池博, S 東海林太郎
II-(4)	8 東京キッド (昭和25年) W 藤浦洸, M 万城目正, S 美空ひばり

備考：井上（1988）より作成。Wは作詞者、Mは作曲者、Sは歌手。表5の8曲は劇中ではレコードを使用する。

らば、桃子が強敵と見た美空ひばりの歌ではないだろうか。

実は完成された昭和庶民伝三部作の第3作「雪やこんこん」(戦後編)では美空ひばりのレコードで旅芝居一座が股旅おどりを演じている。表5に示すように、「雪やこんこん」で旅芝居一座が股旅おどりで使用した流行歌は8曲あり、これらの歌に合わせて一座の者が長ドスや編み笠や合羽を振り回して踊る。8曲のうち「むらさき小唄」、「流転」、「お島千太郎旅唄」、「名月赤城山」の4曲は戦前にヒットした股旅歌謡である。残りの「ひばりの花売娘」、「ひばりのマドロスさん」、「越後獅子の唄」、「東京キッド」の4曲がひばりの歌である。ただし、「雪やこんこん」の時代設定が昭和20年代の終わりなので少女時代のひばりのヒット曲に限定される。浅間山荘事件は昭和47年(1972)2月の出来事なので、浅間山荘事件を題材にした戦後編ならば「リング追分」(1952年)、「港町十三番地」(1957年)、「柔」(1964年)、「悲しい酒」(1966年)といったひばりの円熟期の代表曲を取り入れることができるだろう。井上が「花よりタンゴ」に不満だったために「きらめく星座」、「花よりタンゴ」に続く戦後編は書かれなかったが、「雪やこんこん」の中には書かれなかった戦後編のイメージを読み取ることができる。

注.

- (1) 「花よりタンゴ」の出演者たちは稽古の最初と最後にいつもタンゴを練習したという(井上, こまつ座1986: 121)。
- (2) 市川春代が歌う「青空」は藤原山彦訳詞(二人の青空 心の青空)である。原曲の「マイ・ブルー・ヘブン My Blue Heaven」は今日では堀内敬三訳詞(夕暮れに仰ぎ見る 輝く青空)で二村定一が歌った「私の青空」(昭和3年発売)の方が定着している。
- (3) 井上にとって宮沢賢治は特別な思い入れのある詩人・作家であり、すでに賢治の評伝劇「イーハトーボの劇列車」(1980年10月三越劇場・五月舎初演)でも賢治の「星めぐりの歌」を劇中歌として使用していた。「きらめく星座」でも「星めぐりの歌」は「燦めく星座」と並んでタイトルにちなむ星の歌として使用し、ヒロインのふじにしみじみと歌わせている。
- (4) 井上自身の訳詞による「おひさしぶりね」の原

曲「イツ・ビーン・ア・ロング・ロング・タイム It's Been a Long, Long Time」はアメリカのクルーナー歌手であるクロスビー Crosby, Bing のヒット曲(1945年)である。

- (5) 美空ひばりに関する本は数多いが、本稿は斎藤(2009)を参考にした。
- (6) 月岡四姉妹の花の名尽くしは、四姉妹がタンゴを踊るときに井上が指定したドレスの色にもあられ、蘭子は濃紫、藤子は薄紫、桃子は桃色、梅子は薄紅色である。
- (7) 音楽劇としての「頭痛肩こり樋口一葉」の考察は坂本2004、「國語元年」の考察は坂本2003を参照。

参考文献.

- 井上ひさし(1985)「星に願いをー「きらめく星座」演出にあたって」『新劇』第32巻第10号, 10月, 60-67頁。
- 井上ひさし(1986)『きらめく星座ー昭和オデオン堂物語』集英社文庫, 東京: 集英社
- 井上ひさし, こまつ座(1986)『ああ幕があがるー井上芝居ができるまで』東京: 朝日新聞社
- 井上ひさし(1994)『井上ひさし全芝居 その四』東京: 新潮社
- ※「きらめく星座ー昭和オデオン堂物語」, 「花よりタンゴー銀座ラッキーダンスホール物語」, 「闇に咲く花ー愛敬稲荷神社物語」, 「雪やこんこんー湯の花劇場物語」を収め、本稿の典拠とした。
- 井上ひさし(2005)「昭和庶民伝三部作を書き終えて」(初出1988)『井上ひさしコレクション 日本の巻』所収, 200-205頁, 東京: 岩波書店
- 斎藤慎爾(2009)『ひばり伝 蒼穹流謫』東京: 講談社
- 坂本麻実子(2003)「唱歌から読む『國語元年』」『桐朋学園大学研究紀要』第29集, 10月, 49-62頁。
- 坂本麻実子(2004)「役者に歌わせる井上ひさしの手法ー『頭痛肩こり樋口一葉』の場合ー」『桐朋学園大学研究紀要』第30集, 10月, 37-40頁。
- 服部良一(1993)『ぼくの音楽人生』東京: 日本文芸社

(2011年5月20日受付)

(2011年7月20日受理)

